

施策番号	335	施策名	文化財と伝統行事の継承	令和5年度主管課名	生涯学習課
総合計画体系	政策名	3	創造豊かな教育・文化の里づくり	令和5年度課長名	小原 克則
	関係課名			シート作成者	日下 隆春

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア	町内の文化財・伝統文化	→	ア 指定文化財数	件	見込値 実績値	165	164	166 163	166	166
イ	町民	→	イ 人口	人	見込値 実績値	12,497	11,358	11,627 12,116	11,455	11,280
ウ		→	ウ		見込値 実績値					
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア	適切に保存、管理し、後世に継承する	→	ア 保存・継承されている文化財の数	件	目標値 実績値 達成率	166 165 99.4%	166 164 98.8%	166 163 98.2%	166 166 98.2%	166 166 98.2%
イ	伝統文化に親しんでもらう	→	イ 伝統行事や文化活動に参加している町民の割合	%	目標値 実績値 達成率	49.0 41.3 84.3%	49.5 43.3 87.5%	50.0 42.4 84.8%	50.5 42.4 84.0%	51.0 42.4 83.1%
ウ		→	ウ 文化等を後世に伝承すべきと思っている町民の割合	%	目標値 実績値 達成率	95.0 91.7 96.5%	95.0 92.5 97.4%	95.0 91.2 96.0%	95.0 95.0 96.0%	95.0 95.0 96.0%
エ		→	エ		目標値 実績値 達成率					
⑤ 成果指標設定の考え方		歴史的財産を大切に保存・継承し、同時にそれが過去から現在、未来へとつなぐ重要な町の財産と理解することができる町民を増やすことが大切であり、日頃から伝統行事や伝統文化に親しんでいる町民の割合と文化財を大切にしたいと考えている町民の割合を成果指標とした。				⑥ 成果指標の把握方法と算定式等		町民アンケート		

2. 施策の役割分担

施策成果向上に向けた住民と行政との役割分担	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
		<ul style="list-style-type: none"> 町民は、文化財、伝統芸能や伝統行事の存在価値を理解し、保護・継承を行う。 地域は伝統行事や保存継承や、地域住民の参加をよびかける。また、文化財の保護や保全に協力する。

3. 評価結果

1. 施策の成果水準とその背景・要因

① 施策の目標達成度(目標値を達成したか、未達成か?その要因は?)	② 成果指標の時系列比較(成果は向上したか?低下したか?要因は?)	③ 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?)
<p>コロナによる規制が撤廃され、地域の伝統行事も徐々に再開されつつある。町が主催する講座や講演会なども開催することができ、地域住民へ学習機会を提供することができたが、伝統行事や文化活動に参加する町民の割合や文化等を後世に伝承すべきと思う町民の割合はやや減少し、目標値に達しなかった。コロナ禍では、地域の祭礼や伝統行事が休止されたり簡素化されていたため、その期間に文化や伝統行事への保護・継承に対する意識も薄れてきた可能性がある。保存されている文化財の数(町指定文化財の数)は指定解除により減少した。</p>	<p>指定文化財の件数は令和5年度末現在で、国・県・町指定を合わせて163件である。ここ2年の減少は樹木の枯死により指定解除したもので、理由としてはやむを得ず、文化財の保護、管理が適切ではなかったわけではない。日頃から地域文化に触れている町民の割合や文化財や伝統文化を大切にしなければならないという町民の割合の数値は下がった。コロナ禍中の伝統行事の休止や簡素化が、文化財の保護意識の低下につながっていると感じる。</p>	<p>鏡野町の町指定文化財の数は、151件あるが、これは県下の市町村では真庭市(203件)、美作市(187件)、高梁市(156件)、津山市(154件)に次ぐ数である(令和元年度のデータより。以後の年度のデータは非公表)。合併時に旧4町村の指定を継続したこと、町域面積が広いこと文化財の分布範囲が多岐にわたっているため、他の地域に比べて指定に見合う文化財が豊富であることが要因といえる。その反面、美咲町のたまごかけご飯(岸田吟香)、奈義町の横山歌舞伎、勝央町の坂田金時(金太郎)、久米南町の川柳など文化資源を観光や地域づくりの素材として活用していくという意識は近隣自治体と比較すれば低く、これが伝統行事等への参加率が向上しない一因にもつながっていると思われる。</p>
<input type="checkbox"/> 目標値を上回る	<input type="checkbox"/> 向上した	<input type="checkbox"/> 高い水準
<input type="checkbox"/> 目標値どおり	<input checked="" type="checkbox"/> ほとんど変わらない	<input type="checkbox"/> ほぼ同水準
<input checked="" type="checkbox"/> 目標値を下回る	<input type="checkbox"/> 低下した	<input checked="" type="checkbox"/> 低い水準

2. 施策を取り巻く環境変化(対象の変化、国県の動向、法改正等)と住民からの意見・要望など

コロナ禍により休止していた地域の伝統行事が再開されつつある一方で、過疎・高齢化と相まって継続が困難で行事の廃止を検討している地域もある。また、これらの行事が廃止されても後世に伝えるため、記録を残そうとする取り組みもみられるが、記録活動を行うにあたり、町から補助金の要望もあがっている。国指定特別天然記念物「オオサンショウウオ」は、環境省の特定外来生物指定への動きが見られ、その行方によっては現在行っている事業の方法の見直しを検討する必要がある。また、近年、町外の民間業者による太陽光発電建設が増加し、埋蔵文化財包蔵地での無届の開発や破壊が増えつつある。

3. 施策の振り返りと総括 (5年度の事務事業や取組の成果は?うまくいかなかった取組・問題点と原因は?)

① 施策の成果向上につながった主な事務事業	郷土博物館経常管理費、文化財保護経常管理費
② 施策の成果向上のため改善を要する主な事務事業	特別天然記念物緊急調査事業
③ 施策全体の振り返りと総括	

令和5年度は、博物館講座・講演会とも予定どおり開催することができ、例年になく参加者を集めることができた。地域の歴史や文化に関心をもつきっかけ作につながれば良いと思う。オオサンショウウオの保護活動については、一定の成果を挙げているが、まだ終わりが見えない。長期的な計画を立てて取り組んでいく必要がある。文化財は指定・未指定に関わらず今ある文化財を適切に保護、管理し、文化財指定の候補があった場合は、文化財保護審議会に図り、適正に判断していきたい。老朽化した文化資源保存伝習館は解体が決定したが、代わりに羽出資料倉庫を整備できた。今後は伝習館に収蔵される資料を適正に選定し、保管に努めていきたい。

4. 施策の今後の課題と改革改善の方向(今後、新たに取り組むべきこと、さらに力をいれる必要があることは?)

① 今後施策の成果向上につなげる主な事務事業	無形文化財補助金
② 施策全体の今後の課題と改革改善の方向	

過疎化、高齢化により、適正な管理を継続していくことが困難な個人所有の文化財が出てきている。例えば、文化財のある土地を民間業者や町外の者に売却したり、所有者が町外に転出し放置されたままという事例がある。こうした文化財をどのように管理していくかということ、そして地域の伝統行事をどのような形で継承できるかを考えていく必要がある。文化財指定されたものだけでなく、未指定の文化財も視野に入れ、条件付きで補助金を交付するとか、地域を超えた保存団体の結成など、文化財・伝統行事の継承にあたり、町がどのような支援を行うことができるかを検討していく必要がある。